

ツタヤ図書館について語り合うための6つの論点

鈴木由美子（東京都中野区在住）

通称ツタヤ図書館、CCC（カルチャ・コンビニエンス・クラブ）が指定管理者として運営する図書館については、「びっくりルポ」「あきれたルポ」というべきレポートが数多く書かれてきました。

私も見聞記を書いた1人です。武雄市図書館、海老名市中央図書館（他社との共同事業体が指定管理者）を2016年に、多賀城市立図書館と高梁市図書館を2017年に見ました。

図書館見学を控えていたコロナ期を経て、図書館を愛する人々は、ポイントを絞って話し合うべきだと思うようになりました。

ここに、ツタヤ図書館を考える6つの論点を示します。口を開いて自分の考えを語って下さる方々が増えることを願っています。

- ① 公共図書館から本を借りるたびに、現金に等しいポイントを貸出しカードに付ける仕組みに、賛成できますか。

高梁市図書館では、貸出しカードをTポイントの付くカードにするか、ポイントの付かないカードにするか選べる仕組みで、Tポイントのほうが多く選択されていました。

市民の消費生活ではポイント集めが普及していますが、特定の企業集団による集客や、大量の個人情報収集を目的としたサービスです。

ツタヤ図書館を導入した町にも、貸出しカードにポイントを付けている所と、付けなかった所があります。カードポイントには、現金と同じ価値があります。公共図書館で1回借りれば3円さしあげますというやりかたに、疑問を感じないでしょうか。

- ② 分類が利用者に公表されていない図書館で、調べ物や調査研究ができると思いますか。

多くの方はNDC(日本十進分類法)に触れながら育ち生活しています。興味のある分野では、100区分はもちろんのこと、1000区分まで記憶していま

す。ツタヤ図書館で使っているのは、独特の分類法であり、それが利用者に公開されていません。

海老名で、ツタヤ式の分類表を見せてと頼んだら、「利用者の方には、並んでいる本のラベルを、ずーっと見てもらうしかない」と言われました。高梁では、ジャンル 29 個だけを一覧表にしたプリントをもらいました。その一つ「教育」というジャンル名だけでは、教育学・教育思想・教育史・教育政策・教育制度・幼児教育・特別支援教育などの区分がわかりません。分類のわからない本棚の前に立った利用者は、調べ物をするとき、片翼をもちがれた状態におかれます。

地元の身近な図書館には、専門図書館や大学図書館の機能が重要な時代になっていることを、私はよく自治体議会と教育委員会で話してきました。

ツタヤ図書館の資料区分を論じた研究論文も生まれ、分類自体に欠点があることが指摘されています。

分類は何のためになされてきたのか。その公開が市民にとってどれほど大きな意味を持っていたのか。それを問いかけています。

③ 「本を借りる」ために来館した利用者を、「本を買う」場所へ誘導するサービスをどう思いますか。

読書感想文の課題図書が貸出し中だった時、親にその本の購入を勧めるツタヤ図書館スタッフの対応が話題になっていました。感想文を書く本は課題図書でなくても本人が好きな本を選べばいいのだと、説明してあげたほうがよかったのにと感じた人が多かったようです。

売る本と雑誌の平積み台、高級文具のショーケース等で、図書館中央のスペースが占められている。絵本棚の前に子どもが本を開く場所がないため、販売用の本の上に図書館の絵本を広げて読んでいる。よく貸出しされるはずの児童文学が、大人しか手の届かない高い場所に並べられている。本を借りる人は二の次、本を買う人が優先。そういう場面がよく見られます。

④ 図書館資料としての雑誌の意味を考えてみませんか。

ツタヤ図書館では、図書館資料としての雑誌タイトルの少なさに驚きます。武雄で「文藝春秋はどこですか」とスタッフに聞いたら、最新号を平積みにした販売場所へ案内されました。「バックナンバーが1年分位読める、図書館の文藝春秋がある場所を探しているのですが」と言うと奥へ行き「図書館にはありません」との返事でした。

雑誌には新しい情報群が掲載され、じっくり読める記事も多いのです。最新号にあった連載の3回目を、最初から読むために、前号、前々号を探す場合があります。ある分野の雑誌を1年分読み流し読みすることで傾向をつかむ読み方もできます。

最新号雑誌を販売用に並べ、1冊だけビニールカバーをかけて、コーヒーを飲みながらお読みくださいというサービスが一時もてはやされました。私は美容院で最近の女性誌・生活誌を数冊読む時間を連想します。

しかし、図書館資料として雑誌を提供する意味が、もっと論じられてもいいでしょう。

⑤ 図書館資料費で、古くて無価値な本が購入される状況をどう思いますか。

海老名の児童室で、ペーパーバックの『LITTLE WOMEN』（若草物語）を手にしたら頁の余白が茶色になっていて、裏表紙をめくると、鉛筆で1,000と古書価格が書いてありました。この汚さでは古書店でも廃棄に回るレベルです。他の本にも同様の鉛筆書きが見られます。

ツタヤ図書館開館に伴い購入される本に、古本や、刊年の古い本が数多く混じっていることが、武雄以来繰り返し指摘されています。料理の本が多すぎるなど、異常な選書です。

大手の図書館受託会社管理職が、CCCは1円、2円の本を1,000円、2,000円で買ったことにする会社だと、広言する場面を何度か見ました。名誉毀損で訴えられないか心配なくらいでしたが、業界の常識そのものだということでしょうか。

指定管理者になる業者とその系列企業が、本の販売者と購入者を兼ねていれば、図書購入予算を抜き取ることが可能です。

それをチェックする力を持つにはどうしたらいいのでしょうか。

⑥ 自治体の議会制民主主義が衰退していませんか。

ツタヤ図書館の導入は、多くの場合首長と利権勢力で決定され、議会は事後に承認するだけの例が多いようです。議会には「首長の与党」なる多数勢力がいて、数の力で追認するだけかもしれません。

ツタヤ図書館に批判的な市民に対し、市議会議員が「議員になってからものを言え」と、暴言を吐いた例もありました。

ここで、どの自治体もそんなものだと言ってしまうのは、民主主義の死滅に手

を貸すこととなります。市民は情報公開を求めることができるし、市議会に請願を出すこともできます。

特定企業に公共施設を使わせ非常に安いテナント料しか取らない。図書館機能が弱められ販売機能が優先される。渡された公金の使い方に不審なところがある。働くスタッフの待遇を把握できていない等々。

タックスペイヤーである市民からの疑問を解明する動きを、議会を含めて作り出せるかもしれません。

香港やアフガニスタンの状態に違和感を覚える感性があるなら、わが町は駄目だと自嘲する傍観者になってはいけないと思うのです。

以上